

平成 29 年 4 月の解説（週間天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、旬の前半は上空の寒気の影響により東日本や西日本を中心に雷雨となった所がありました。旬の後半は、前線の影響により東日本や西日本では曇りや雨の日が多くなりました。北日本や沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、晴れる日が多くなりました。気温は、旬のはじめは北から寒気が流れ込んだため全国的に平年を下回りましたが、旬の中頃からは南から暖かい空気が流れ込んだため平年よりも高くなりました。

中旬は、本州付近を低気圧と高気圧が交互に通過しました。17 日から 19 日には、発達した低気圧が日本海から北日本へ進んだため全国的に天気が崩れ、暴風や大雨となり、各地で土砂災害等が発生しました。低気圧の通過後は一時的に寒気の影響を受け、北日本では北海道を中心に平地でも積雪となった所がありました。沖縄・奄美では前線や気圧の谷、湿った気流の影響で旬間日照時間が少なくなりました。旬の中頃は南からの暖かい空気が流れ込んで気温が高くなり、18 日には群馬県上里見で最高気温 30.6 を観測するなど、夏日や真夏日となった所がありました。

下旬は周期的に天気が変わりましたが、旬の前半は高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。旬の後半は低気圧や前線の影響により先島諸島で大雨となり、特に 26 日は沖縄県石垣島で日降水量が 250mm を超える大雨となりました。28 日から 29 日は、上空の寒気の影響により雷雨となった所がありました。東日本と沖縄・奄美では、寒気が流れ込みやすかったため、気温が平年よりも低くなりました。

月平均気温は、北・西日本で高く、東日本や沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、西日本で多く、北・東日本や沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、北・東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美で多く、北・東日本日本海側では平年並でした。

【4 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値^{（注）}より 4 ポイント高い 75%でした。各地方の適中率は、九州南部地方以外で例年より高く、近畿・中国・四国・九州北部の各地方では例年値より 5～7 ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.4 小さい 2.4 でした。各地方の予報誤差は、九州南部地方以外で例年より小さく、東日本と東北、近畿、中国の各地方では例年値より 0.5～0.7 小さくなりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.9 でした。各地方の予報誤差は、沖縄地方以外で例年値以下となり、九州南部地方では 0.7、四国地方では 0.6 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6 月の週間天気予報の利用にあたって】

6 月は、日本の南海上に停滞していた梅雨前線が次第に北上し、平年では上旬から中旬頃にかけて、西日本、東日本および東北地方で梅雨入りとなり、曇りや雨の日が多くなります。また、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線は南下し、関東地方以北の太平洋側を中心に冷たい北東の風が吹き込むため気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって農作物の生育不良などが起こります。

週間天気予報からわかる向こう 1 週間の天気や気温の傾向を、農作物管理等に役立ててください。